



第五号

一代記

繪本西郷

早川徳之助編輯
木宗版

榎本和泉守武揚

参謀西郷吉之助



A440
2

早川徳之助編輯
松月保誠画

繪本西郷一代記

東京書肆 小林宗次郎版

繪本西郷一代記第五號

海軍中將兼魯國公使



早川徳之助編輯

榎本武揚公

西郷五芳

48-7908

四号のつら 此の我端と定さし儀ハ大ひよ
うたぐひと生ハ可申ハ是迄のべんもん

勝 安房守 明



致し示此度條理
と失し結局
の場合ハ
押し来り
彼底意をせん
せん致し得ハ
此の上大臣の内
より旅出のじ
道理をらじ

弱者
の傍
無定
且隣国
より
應答
さ道相
絶へ可申ハ
さう手ごんを
経ひて入全
跡戻りの形

西郷吉之助



我ひを決し
理ハ我ハ

勝 安房守
慶喜の命
小依つて
西郷氏よ
謁す

謝せん事ハ成立
勢ハ如何共可
あそれ計をの



道を以てては只
 弱きを侮り強きを恐る
 心底より起る者とは
 察せられ棒太一條より
 ロレヤの歡心を得
 かろふと紛義をこむ
 爲す事とあはしむるあり

西郷三平



あす
 必し御計
 早きを早く
 此の戦端を閉
 内々怒りをもち
 比者より何と
 術策の上より
 考へずと相
 東京の挙動
 ゆる共見え死

西郷



是迄の行ぐろを水の泡
 西郷吉之助
 政府已小
 大臣を派
 出せり
 如此ま
 のよ及び
 何とも

西郷三平

此所^{こゝ}の^{こゝ}産^うひ^ひ二三度の^ど報告^{ほうこく}を^をて
曲^{まが}さ^まあ^あら^らか^かう^う可^べ申^{まう}と^と存^{ぞん}ひ^ひこ^この^のむ^むの^の

條原國幹

條原國幹

朝命を

申上^{まうじやう}敬白^{けいぱく}

奉上^{ほうじやう}に

日當山^{ひたうざん}

上野の

温泉場^{おんせんば}

賊徒を

西郷

此^{こゝ}が^{こゝ}の^の真偽^{まゐ}を^を詳^{しやう}に^に

う^うの^のせ^せせ^せ日^に脱^{だつ}誤^ごも^もあ^あら^らん

只^{ただ}聞^きけ^ける^るを^を記^き



茲^{こゝ}に^に西郷^{さいきやう}氏^し
さ^さた^たに^に征^{せい}韓^{かん}の^の論^{ろん}

立^たえ^えり^り田^{でん}野^や不^ふ

耕^{かう}作^{さく}釋^{しやく}き^きり^りを^を

百^{ひやく}農^{のう}の^のこ^こと^とを^を

樂^{らく}し^しと^と或^{ある}の^の学^{がく}校^{がう}

一^{いつ}切^{せき}け^け居^いる^ると^と改^かめ^め

三^{さん}年^{ねん}有^あり^り余^あり^りの^の氣^き

佐^さ賀^が熊^{くま}本^{ほん}の^の暴^{ぼう}風^{ふう}

西郷吉之助



あ^あの^の吹^ふ動^{どう}く^くの^のこ^ころ^ろ

色^{いろ}も^もあ^あり^り草^{そう}廬^ろ三^{さん}

顔^{かほ}の^の人^{ひと}を^を得^えり^り

臥^ふ竜^{りゆう}九^く五^ごの^の氣^き

運^{うん}を^を待^{まち}つ^つと^と

立^たの^の人^{ひと}あ^あら^らん^んと^と死^しん^んあ^あら^ら

さ^され^れど^ど遙^{とほ}よ^よ其^{その}有^ある^る形^{かたち}を^を

見^み聞^きけ^ける^る人^{ひと}の^の乳^ち子^この^の

母^{はは}を^を慕^もへ^へる^るあ^あら^らん^んと^と

と^と朝^{あさ}夕^{ゆふ}の^の校^{がう}に^に入^いり

親^{おや}を^をせ^せむ^むる^る者^{もの}ハ^ハ何^{なに}等^{とう}の^の

徳^{とく}ハ^ハ薰^{かほ}む^むる^るや^や西^{さい}郷^{きやう}氏^しの^の

事小新く水火を避せし
の至る者数千の
黨とありとを憊す

西郷氏の折と大保七左門
諸生を伴ふ山野ノウケありき
経捷の進退を

習自せん
他日練兵
の心あり
もや政府早くも其
情とをうり得し

明治十年一月三十一日



出船して
神戸の
歸るもの
をこの
縣官不
上申せ
政府
より
内務
林君

三菱會社の赤竜丸と稱へる汽船
鹿兒島へ至らば
彼地の製造
貯置り
弾薬を積
運送の際に望
諸生九
二千入
餘も
押来り
夜中より



官吏方
夫々彼地へ
派兵せられ
中々可なり
近付べき
小非されば
其形勢を
直小急
報小次

つゝ及をれけの
憊る折の敬言部
中原尚雄鹿兒島縣

伊集院郷士

族正兵衛

嫡子少

敬言部同牛山

郷上族中敬言部

園田長頭同出水郷の

士族中敬言部野間口兼一同く

平佐郡士族中敬言部末廣直方同く

喜入郷士族少敬言部安樂兼道同く

子鹿兒島の士族
島縣市 権少
来郡 敬言部
高崎 親孝

同而田士族

権少敬言部山

奇基明一等

巡査且樋股賢助

同加治木

郷の士族

伊丹親恒同谷山郷の



會津白兒隊
切腹の圖

加世田郷士族權少敬言部土持高東

京府士族中敬言部

菅井裁

美

士族書生平田才七同く

加世田郷士族

書生大山繼助

猪尾倉保

同平佐

郷士族

書生田

中直哉

同加治木

郷士族四等

巡査、前田素志同く

帖佐郷士族つぎへ

①密事を西郷が私学黨の

榎本和泉守



昔は世々
毎夜
十名程
交りたんふ
西郷のやーきん
かとも折しもある
日ある者もや西郷の
邸は思ひ入り
床下は潜りた
るを早くも悟
りて
四隅を

四等巡査
同如世田郷の
成受同蒲生郷士族
士族書生柏田
同平佐郡
高橋
為清

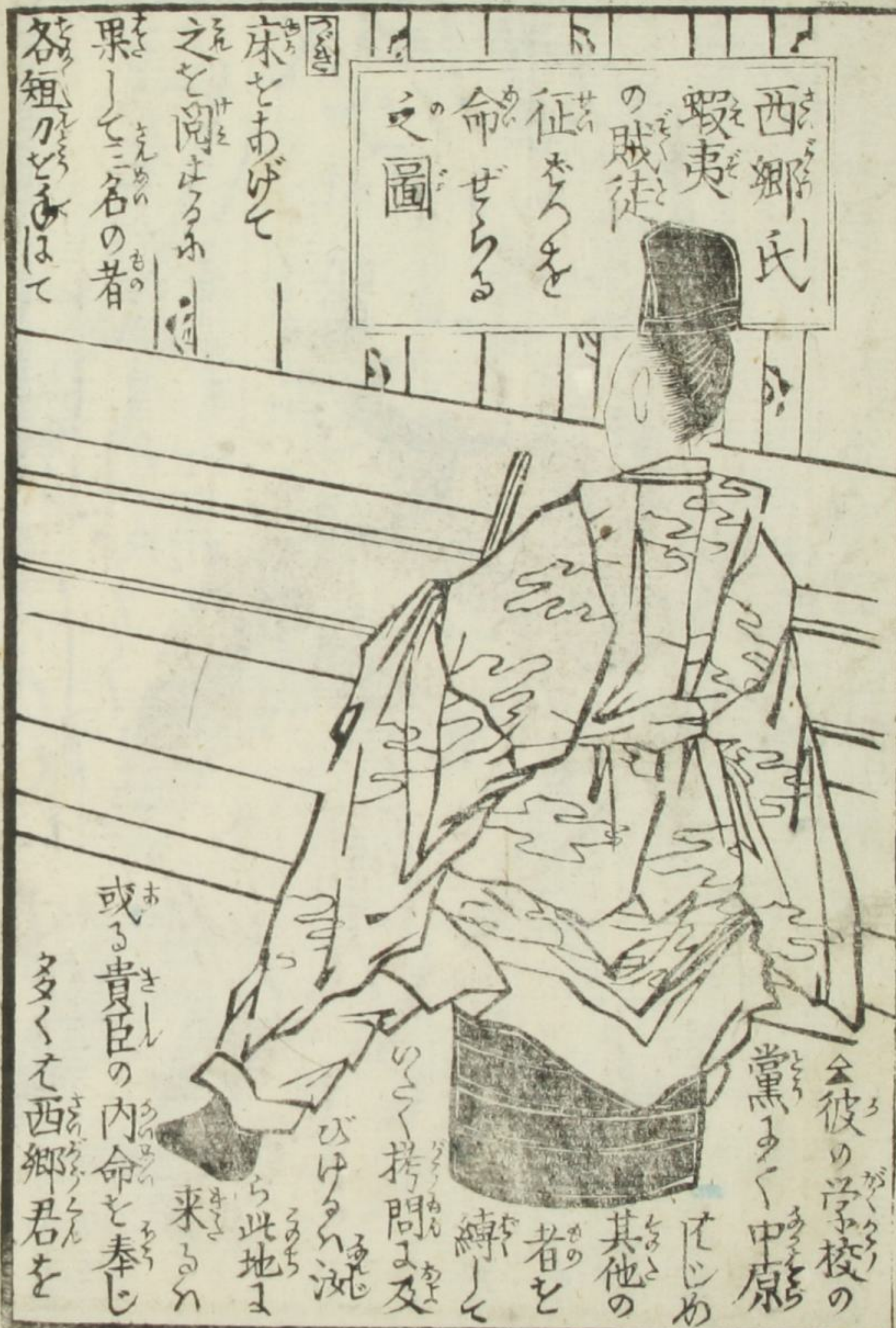
士族
二等巡査西彦四郎

大鳥圭久



其の外合せと世二名
外は同郷
士族好
野村村綱等の
諸君あり親族
彼地は居られし時其他の者ある者の歸省して
何分の密事のありしを内壺人返心して其の
得物を携え入り其
得たり應と各
少年輩ハ
盗あり
諸君はふ
来りてこれぞ
とらん
よと言ひ
ければ
邸を打固め

西郷氏
蝦夷
の賊徒
征せんを
命ぜらる
之圖



床をあげて
之を閲する
果して三名の者
各短のどまほて

全彼の学校の
黨多く中原
にじめ
其他の
者も
縛して
此地より
来ふ
或る貴臣の内命を奉じ
多くて西郷君を

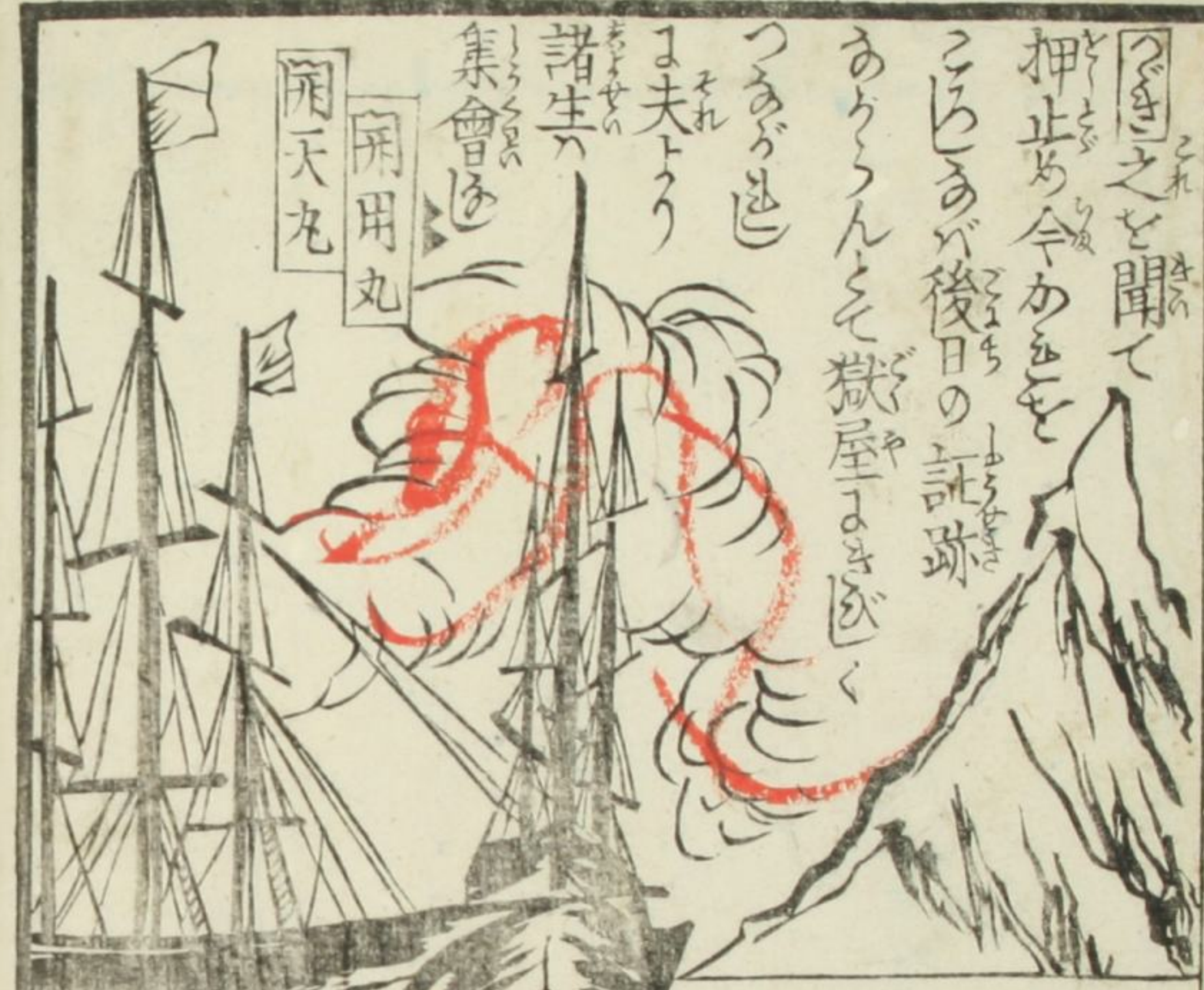


現をこころを
一人の棒をこころを
一人の切り一人を縛して
事の子細をこころを
遂に黨るぬを
捕縛する
とこそ
且如何
あること
かろの
閑せるぬやへ

失をせんが爲め来るぬ
疑ひのしとをあらわす
携門と
うけより無
中原君はめ諸君士
ゆも遂に
伏罪の口實証小捺印
せめられ既よりうち首
小せんとせりと西郷氏

010190507926

西郷五郎



暴挙の企てをきりあり
 期その大會議の巨魁
 西郷隆盛桐野利秋
 篠原國幹を初めとて
 勇猛智士とあり
 列座ありけり
 軍議速く相決し
 大將隆盛高面小
 座たる其容貌
 泰然とて軍令條を
 申渡す其文は曰く
 軍令文
 号五

一号二号三号
 四号五号六号

明治十年十月廿九日御届

定價三錢

編輯人

猿樂町十五番地

早川徳之助

出版人

馬喰町四丁目十八番地

小森宗次郎

